

襖の外観

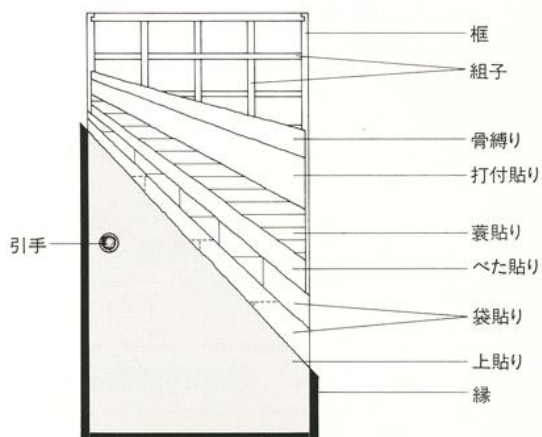
■襖とは…

襖は、昔は「障子」という言葉が広い意味で用いられていたため、「襖障子」と呼ばれていました。

現在では、障子と襖は別のもので区別され、襖は部屋の間仕切りや押し入れなど、実用とインテリアを兼ねた建具として使われています。

襖は、襖紙(上貼り)・下貼り・引手・縁・骨などで構成され、最近では、その材質もデザインもさまざまです。

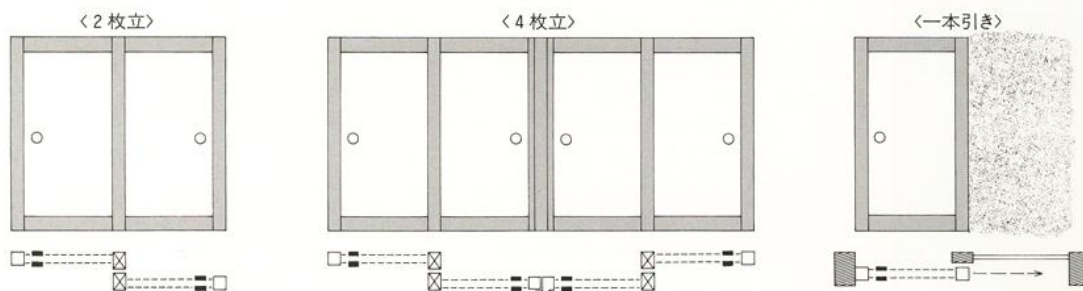
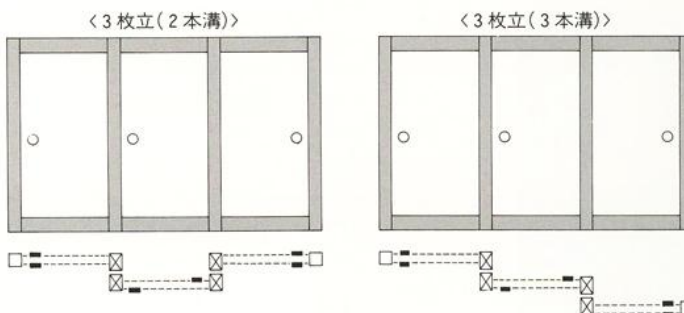
なお、仕上がった襖は普通「本」の単位で数えます。



※下貼りは七遍貼り仕上げ(四遍貼りは24ページ参照)

■襖の嵌め込み方

- すべて手前側が主室側です。
- 引き違い召し合わせ部はマス線(☒使用)。
- 4枚立及び両開きの突き合わせ部は定規線を使用。
- 印はドブ線。
- 印は引手位置。



- 襖とは…
- 襖の嵌め込み方
- 襖のいろいろな呼び方

■襖のいろいろな呼び方

襖は、その種類や使われ方で呼び方が変わります。1. サイズ、2. 開閉様式、3. 用途、4. 縁の太さ、5. 縁の取り付け方法、6. 変わり襖、7. 規格品・特注品、などによって、いろいろな名称(略称)があります。

①サイズによる名称

A) 襖の高さ寸法による呼ばれ方

- 五七(ごしち)
高さが5尺7寸のもの。
- 五八(ごはち)
高さが5尺8寸のもの。

□中間(ちゅうま)

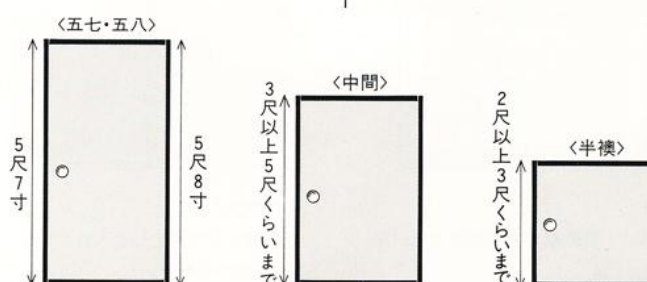
高さが3尺以上5尺くらいまでのもの。

□半襖(はんぶすま)

高さが2尺以上3尺くらいまでのもの。

このほか、最近の生活様式の変化により高さが5尺8寸を超える丈襖と呼ばれるものもあります。

なかでも2m丈の建具に合わせて、襖の高さが2mのものも増えています。



B) 襖の幅による呼ばれ方

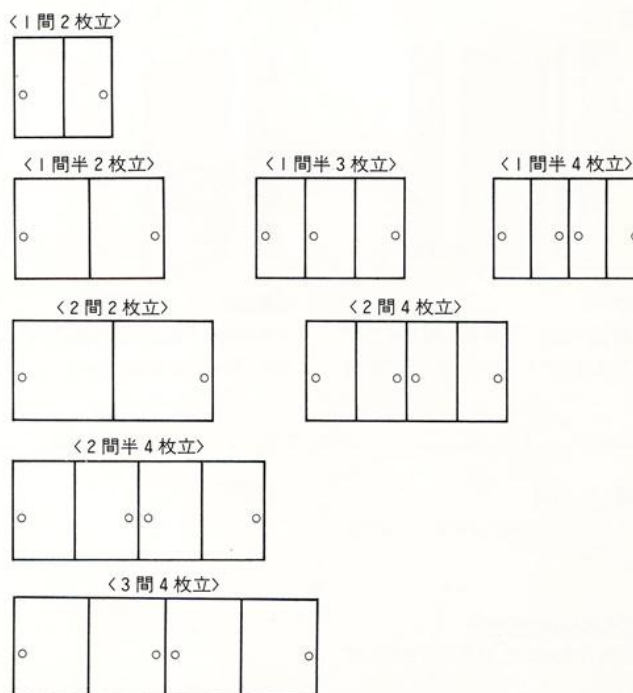
襖は柱と柱の間の寸法(内法寸法)に、入る本数によって、次のように呼ばれます。

□2枚立(にまいだち)

柱と柱の間が2枚の襖で構成されるもので、「引き違い」とも呼ばれる。特に1間の幅のところに入るものを「間中」という。

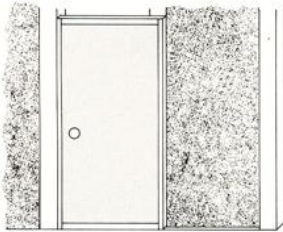
□4枚立(よまいだち)

柱と柱の間に4枚の襖が入るもの。内法が9尺の場合は「九四」、または「9尺4枚立」、2間の場合は「2間4枚立」、または「二間」、同じく2間半は「2間半4枚立」、または「二間半」、3間の場合は「3間4枚立」、または「三間」と、それぞれ呼ばれる。



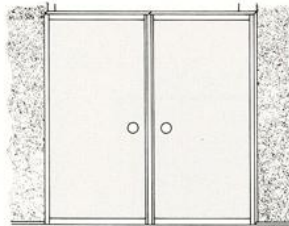
②開閉様式による名称

A)引き



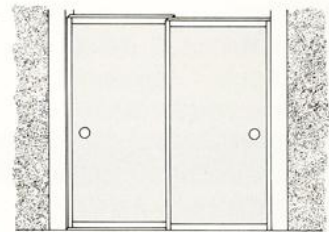
□片引き

1本の溝に1本の襖が入るもので、「一本引き」ともいう。



□引き分け

1本の溝に2枚立として入れたもので左右に引き分けるもの。



□引き違い

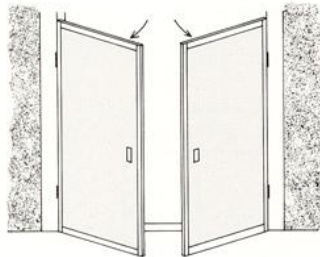
2本以上の溝に入れ、引き違えることができるもの。

B)開き



□片開き

1本の襖の片側に丁番を取り付け、その反対側に取手を付けたもので、開閉して使用する襖。



□両開き

2本の襖を手前に引いて使用する襖。観音開きと呼ばれるものもある。



□観音開き

2枚、3枚、あるいは4枚ずつの襖が左右に吊られていて、折りたたんで開くもので仏壇に多く使われている。

C) 儉鈍 (けんどん)

上下に上げ下げして取りはずすことのできる小襖のこと。

D) 嵌めごろし (はめごろし)

壁に取り付けたままで、開閉のできない襖のこと。

3 用途別名称

□間仕切り(中仕切り)

部屋と部屋とを仕切るために使われる襖。襖の両側が部屋に面するため両面上貼り(裏は裏貼り)が貼られる。このため、「両面」「両面貼り」とも呼ばれる。

□押入れ

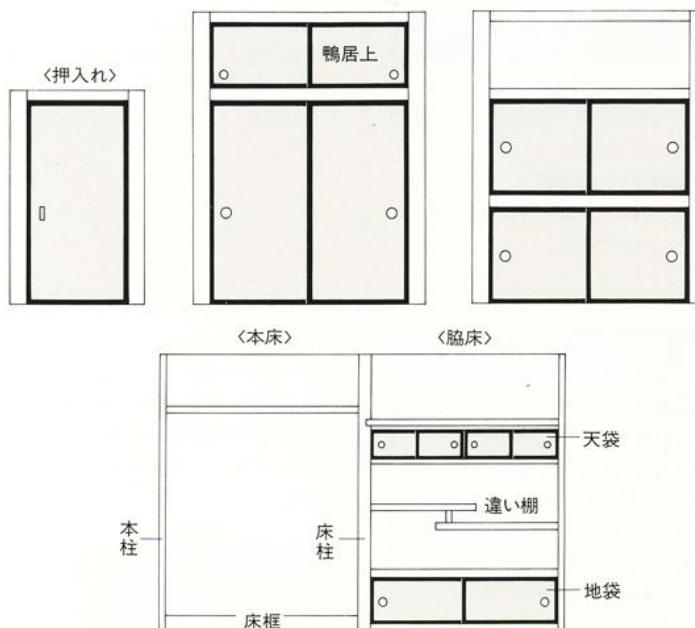
片側だけが部屋に面するので、片面のみ上貼り(裏は裏貼り)が用いられる。このため「片面貼り」とも呼ばれる。

□鴨居上[かもいうえ]

押入れの上の小襖のことで、現在では、「天袋」とも呼ばれる。縁は細縁、または縁なし(太鼓襖)が用いられることが多い。

□天袋・地袋[てんぶくろ・じぶくろ]

床の間の脇床の上段・下段に取り付けられる小襖のことで、上段のものを天袋、下段のものを地袋と呼ぶ。縁は細縁が用いられることが多い。



4 縁の取り付け方による名称

□堀付き[ほりつき]

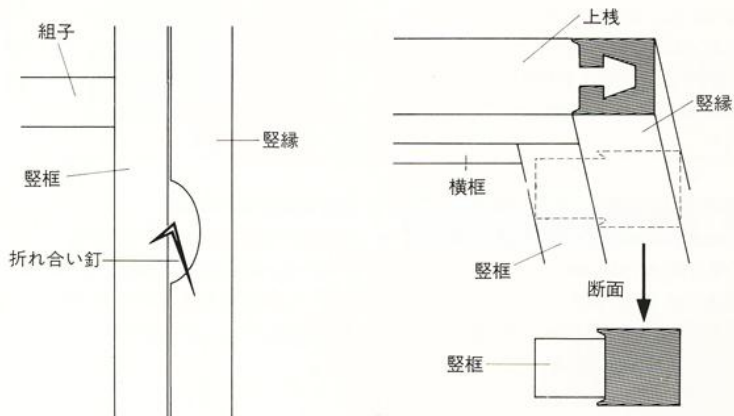
一般的な縁の付け方で、縁の表面に釘の頭が見えないように、折れ合い釘、木ネジなどを使って縁を取り付けたもの。このため「釘かくし」「折れ合い」とも呼ばれる。

□打付[ぶっつけ]

縁の外側から釘止めをしたもの。釘の頭が表面に出ているため、「打ち付け」とも呼ばれる。

□印籠[いんろう]

縁と骨を印籠の形で取り付けしたもの。



5 縁の太さによる名称

□並見付き【なみみつき】

縁の見付きが6分5厘のもので、一般的に使われているもの。

□細縁襖【ほそぶちぶすま】

縁の見付きが、並見付きよりも細いもの。5分、4分などがある。

□太縁襖【ふとぶちぶすま】

縁の見付きが、並見付きよりも太いものをいい、見付きが8分または1寸のものが多く、主に東北・北陸地方などで使われる。

長さの基準	
1分 = 約3mm	5厘 = 約1.5mm
5分5厘 = 16.5mm	7分5厘 = 22.5mm
6分 = 18mm	8分 = 24mm
6分5厘 = 19.5mm	8分5厘 = 25.5mm
7分 = 21mm	

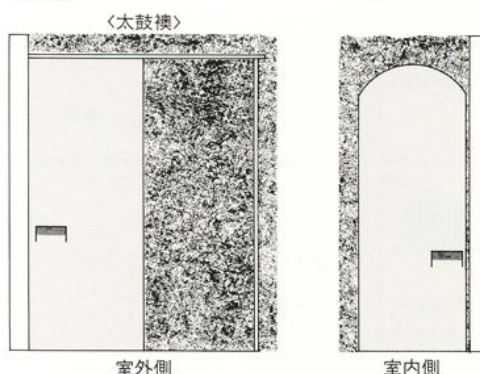
6 変わり襖

□太鼓襖【たいこぶすま】

縁なしの襖で「太鼓張り襖」「坊主襖」とも呼ばれ、茶室や、洋間と和室の間の仕切り鴨居などに多く用いられる。引手は切引手を使うことが多く、切引手は骨の1小間をそのまま引手代わりにしたもので、図のように引手板を入れ、表面には上貼り紙を貼って仕上げる。ただし、裏と表の同じ位置に引手がつくれないため、茶室の場合には室内側は襖骨の小間で下から4つ目に、室外側は5つ目に切引手を付けるのが一般的である。この切引手は「落とし引手」「塵落とし」などとも呼ばれ、デザイン的にはすっきりしているが、上貼り紙に直接手が触れるために汚れやすいのが、やや難点である。

□源氏襖【げんじぶすま】

襖の一部を切り取って、その部分に障子を組み込んだもので、「中抜き襖」とも呼ばれる。この襖を使うことで部屋に光を取り入れたり、デザインに変化をもたせることができる。



7 規格品・特注品

□注文襖【ちゅうもんぶすま】

建物の柱、鴨居、敷居に、一本一本丁寧に合わせてつくられる伝統工法の襖。上貼りの模様から縁、引手はもちろん、サイズ・構造まで指定することができ、4枚つなぎや6枚つなぎなどの模様の特別注文も可能。「建て合わせ襖」とも呼ばれる。

□寸法襖【すんぽうぶすま】

注文襖と規格襖の中間に位置するイメージ的な襖。注文襖ほど細かくはないが、寸法・模様など、ある程度顧客の注文に応じられる。工期も注文襖ほどかからない。

□規格襖【さかくぶすま】

襖の高さや幅などが標準化(規格化)されている襖。上貼りの模様やサイズが決まっているため量産ができ、価格も比較的安い。

